

それからというもの、社員を我が子のよう
に思い、専務である妻と二人で時には親
代わりに叱り、時には誰よりも応援しまし

人を生み、育て、やしなう、これは親
の愛である。家庭をつくり、社会をいと
なみ、人の世の幸福と文化を生み出すも
とは、人の愛である。

社員教育で頭を悩ませていたA社長の会
社では、とくに若手社員の離職率が高く、
無断欠勤・遅刻、トラブル等が後を絶たな
い状況でした。そうした中、経営者モニ
タリングセミナーで輪読する『万人幸福の葉』
の一節に氏は光明を見いだしたのです。

現在の日本を見渡すと、あらゆるところ
で魂の叫びが聞こえてきているという現状
です。家庭・学校での教育が崩壊しつつあ
る今、職場での教育が最後の砦ではないか
とも言われています。

この事実から、人は栄養補給と身辺処理
だけではまともに生きてはいけず、スキン
シップは魂の正常化をはかる上で極めて重
要であるということは明らかです。新生児
は親からの愛情を得ようと、精神的乾きを
何とかして潤そうと必死なのです。

今から八百年程前、ローマ帝国のフリー
ドリッヒ二世が、多くの新生児を集めて恐
ろしい実験を行いました。

集めた新生児に対してスキンシップを全
く施さず、言葉も掛けることなく、世話係
がミルクを与えて胃袋を満たし、排泄の処
理だけして育てたのです。その結果、ほと
んどの新生児が心を病み、多くが死んでい
ったというのです。



人を人たらしめるもの それは人の愛である

え・牧えみこ

会社では社長が親であり、社員はかわいい
子供たちです。社員の幸せを願い、親のよ
うな思いに至ったとき、真心の働きが姿を
現わすのです。

多くの親は、子供のためならば、己を捨
て子供を守ろうとします。子供が病気になる
らうものなら「自分が代わりに病気になる
ます。だから子供だけは助けて下さい」と
念じ、子供が危険にさらされようものなら
ば、命がけで助けに行くでしょう。そこには
自己愛など無く、我が子に幸せになつて
もらいたいという思いしか存在しません。

「気の毒だな」「かわいそうだな」という同
情心となります。この時、人間の心は動物
の心とは離れ、これが高められて友愛とな
り、師弟の愛となり、主従の愛となり、つ
いに親子絶対の愛になるというのです。

次の段階として愛が人間のものになつて
くると、まず、滲み出るのは憐憫の情で、

倫理研究所創設者の丸山敏雄は、その著
『純粋倫理原論』「愛の倫理」の中で、愛を
段階的に説明しています。最も低い愛情を
自己愛であると述べ、これは己一人の為に
愛を支配・独占、すべて我が物としようと
する我情の変形であるとしています。恋愛
は、この段階で終わるものが多く、男女の
愛は、じつは動物愛を誇張したものである
とも言っています。

た。A社長夫婦の家族以上の関わりに若手
社員も心打たれ、「裏切れない」という思い
から、問題が激減したのです。